

この出会いは運命に違いない

(株)柳板金工業



代表取締役社長 高野 伸一 氏
柏崎市大字安田76-1
Tel.32-2183 Fax.32-2184

雪のない二月中旬、市内安田にある株式会社柳板金工業さんにお伺いし、二階の事務所で代表取締役社長高野伸一さんに話をお聞きしました。柳板金工業さんは昭和五十一年創業、昨年五月に株式会社組織改編をし、社長が柳さん（現会長）から高野さんに継がれました。高野さんは、昭和五十二年生まれの四十二才。南鯖石小学校、第五中学校、柏崎農業高校と進まれました。高校卒業後、市内の金物屋さんに就職し、トラックに乗って材料を納める仕事をされました。二年ほど勤め仕事を辞めた後、柳さんに「忙しいから手伝いに来てくれ」と誘われました。配達の仕事をしている中で、板金の仕事に興味を持っていた高野さんは柳板金工業さんで働くことになりました。

仕事をしてみてどうでしたか？とお聞きしたら、「覚えることが沢山あって今も楽しいです」とおっしゃいました。ここに就職するために前職を辞めたわけではないのに、二十年板金の仕事に携わっている今も「楽しい」と言えるなんて、仕事を辞めたことも、柳さんに声をかけてもらったことも何か運命的なものでしょうか。

現場仕事では危険なこともあると思いますが、「入社してすぐのところ、冬に足場の階段で滑り、隙間から落ちて背骨を圧迫骨折！」それ以降、大ケガはないそうです。

就職後、二つの大きな地震がありました。屋根の修理も相当な数があったことでしょう。修理してもらった方から手を合わせて拝まれた、ということを経験されました。困っている方のお役にたてる仕事です。

地震を経験して、瓦屋根から板金屋根に変えるお宅も増えているそうです。また、塗料やメッキの品質の向上や、家のデザイン性が高まり、壁面にも金属外壁が使われたり、更に仕事の幅が広がって活躍されることとします。

「建築士や大工さんや子どもたちは知っていますが、板金屋さんはあまり

知られていません。でも、今はずいぶん外回りは板金が多いです。板金屋になりたいという若い人や子どもたちが増えるようになったらいいな」と高野さん。仕事の喜びをお聞きすると、「完成したときはもちろん嬉しいですが、毎回建物が違うから、そこが楽しみです」とのこと。

高野さんのご家族は、奥さま、小学生の娘さんお二人です。

今年はまだにみる少雪ですが、ご家族でスキーを楽しまれているとのこと。取材日の週末には安塚のスキー場に行く予定だそうです。また、小学校のスキー授業では、毎年ボランティアとしても参加されています。

これからの夢をお伺いすると、「子ども部屋を作りたい」とお話しされました。娘さんたち待っているかな。楽しみですね。

(十人衆(若)・(阪)取材)

